

会議録

会議の名称	令和8年度第1回朝霞市ふれあい推進事業推進委員会
開催日時	令和8年7月8日（水） 午後6時00分から午後7時00分まで
開催場所	朝霞市民会館 梅会議室
出席者及び欠席者の職・氏名	○出席者 29名 ・委員等 21名 （松尾自治会連合会長、平塚文化協会会長、栗原レクリエーション協会理事、渡邊青少年育成市民会議会長、松井スポーツ少年団本部長、坂本西部地区民生委員児童委員協議会副会長、鳴海東洋大学教授、佐藤社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会常務理事、高橋青少年相談員協議会書記、伊藤埼玉県立朝霞高等学校長、佐藤埼玉県立朝霞西高等学校長、太田朝霞第一小学校父母と先生の会会長、加藤朝霞第一小学校教頭、網岡朝霞第九小学校保護者連絡会代表、吉澤朝霞第九小学校長、生方朝霞十小学校子どものための会会長、宮腰朝霞第十小学校長、相澤朝霞第四中学校父母と先生の会会長、太田朝霞第四中学校長、渡部朝霞第三小学校PTA会長、松本朝霞第三小学校長） ・事務局 8名 （堀川生涯学習部長、福士学校教育部長、渡邊生涯学習部次長兼生涯学習・スポーツ課長、竹本こども未来課長、手島教育指導課長、佐々木生涯学習・スポーツ課係長、倉林教育指導課指導主事、三宅教育指導課指導主事） ○欠席者 5名 （石原朝霞市スポーツ協会会長、柏谷商工会理事、大畑保護司会朝霞支部副支部長、上村朝霞警察署生活安全課長代理、小林朝霞第一小学校長）

議題	1 委嘱状交付 2 教育長あいさつ 3 委員自己紹介 4 役員選出 5 議題 (1) 事業概要・推進委員会・実行委員会について (2) 今年度のふれあい推進事業の実施について (各校区からの報告) (3) 今後のふれあい推進事業の在り方について (各校区からの報告) (4) 予算について (5) その他	
会議資料	資料1 令和8年度朝霞市ふれあい推進事業第1回推進委員会次第 資料2 令和8年度朝霞市ふれあい推進事業	
会議録の作成方針	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☒ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☒ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 事務局長による確認	
傍聴者の数	16人	
その他の必要事項	無し	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（司会・佐々木係長）

- ・開会
- ・傍聴希望者について
- ・司会者自己紹介

（委嘱状交付・教育長）

（教育長あいさつ・教育長）

- ・本市の児童生徒の健全育成に対し、多大なるお力添えをいただいておりますことに感謝申し上げます。
- ・本事業開催にいたる経緯といたしましては、「地域の子供は地域で育てる」という考えのもと中学校区、つまり学校の垣根を超えて、複数の地域と複数の学校、そして保護者が一体となって子供に関わっていこうというものでございます。現在、朝霞の子供たちが地域で輝いており、「みんなで育てていく」という機運があるのは、この原点があったからだと自負しております。
- ・今後この事業をどうしていくかについては、今年度「在り方検討会議」というものを設けて検討してまいります。
- ・子供たちのためにできる形での事業を、今年はやっていきたいと考えています。
- ・ぜひ皆様、手を取り合って頑張っていきたいと思っております。

（司会・佐々木係長）

- ・委員の自己紹介
- ・事務局の自己紹介

（司会・佐々木係長）

- ・事務局長の堀川生涯学習部長が進行役。
- ・委員長・副委員長の役員選出。

（事務局・三宅）

- ・朝霞市ふれあい推進事業推進委員会設置要綱第3条の確認。

（渡邊委員）

- ・自治会連合会の松尾会長の推薦。

（全体・異議なし）

（松尾委員、了承）

（松尾委員、あいさつ）

- ・副委員長を選出。
- ・青少年育成市民会議の渡邊俊夫委員にお願いしたい。

(全体・異議なし)

(渡邊委員、了承)

議題

(松尾委員)

- ・事務局より説明してください。

(事務局・三宅)

- ・議題1「事業概要・推進委員会・実行委員会について」の説明。
- ・事業概要の確認。
- ・推進委員会について。
- ・実行委員会の本年度の事務局について。

(全体・質問なし)

(事務局・三宅)

- ・議題2「今年度のふれあい推進事業の実施について」の説明。
- ・各校区で積極的に実施をしていただけるよう、事務局としても支援をしていく。
- ・各校区の今年度の事業について（準備委員会の報告）

(一中校区・太田実行委員長)

- ・一中校区は非常に広く、一箇所に集まるのは物理的に困難という課題がある。
- ・昨年度までは朝霞第一中学校が会場であったが、今年度は各小学校単位（一小、四小、六小）で、それぞれの地域の事情に沿った形で行いたいと考えている。
- ・中学生は、卒業した母校の小学校へボランティア参加する形を想定している。

(二中校区・事務局代読)

- ・事務局が未定のため、行政が代読する。
- ・各小学校での開催を検討しているが、祭りのない第九小学校などでは実施が難しいという意見も出ており、各校へ持ち帰って検討する。

(三中校区・生方実行委員長)

- ・「町を明るく元気に」を合言葉に、伝統の挨拶看板作りとステージ発表を継続する。
- ・周知不足を解消するため、11月7日に三中全会で新たにワークショップや食育を兼ねた模擬店などの試みを計画している。

(四中校区・相澤実行委員長)

- ・10月24日に四中全会で開催予定です。隣接する八小と連携し、一部の教室や体育館を借りて実施する。

(五中校区・松本校長)

- ・11月7日の午後に開催する。
- ・地域の企業や団体にも出店いただき、交流を図る。
- ・当日、子供たちの笑顔を見ると達成感はありますが、祭りの場だけで終わらせず、

その後の継続的な交流にどうつなげるかが課題となっている。

(全体・質問なし)

(事務局・三宅)

- ・議題3「今後のふれあい推進事業の在り方について」の説明
- ・「ふれあい推進事業在り方検討会議」を7月30日に開催する。
- ・校長先生方や保護者の代表者など、実務を担う可能性のある方々をお呼びし、方向性を検討する。

(一中校区・太田実行委員長)

- ・来年度以降の中学校区の在り方について、一中・二中は小学校が3校入っており、物理的にも離れている。一方で四中・五中などは2校で隣接している。この「中学校区」という枠組みで一律に区切るのは難しいと感じている。また、予算配分についても、児童数に明らかな差があるが、一律25万円というのはおかしいのではないかと。実施単位についても来年度に向けて話し合いたい。

(四中校区・相澤実行委員長)

- ・今回、本来は八小が幹事校の年だったが、PTAの縮小で人が集まらず、四中が連続で引き受けることになった。正直、個人としてはものすごい負担である。組織は代替わりするので、次の方も同じように続けられるか非常に不安である。それと1点、会議の場で先生方から「働き方改革で土曜に先生を集められない」と言われてしまうと、保護者は何も言えなくなる。「じゃあ保護者は何なんだ」という話になり、前向きな発言ができなくなる。そこは言わないでいただきたい。また、市の担当の方にももう少し介入してほしい。要綱には「行政も一丸となって」とありますが、協力体制が弱いと感じる。保護者の「やらされ感」をなくすためにも、市から学校側へ意識改革を訴えていただければ、我々もやりやすくなる。

(松井委員)

- ・校長や保護者の代表以外は、その検討会議には関係ないということなのか。

(事務局・三宅)

- ・検討会議で頂いたご意見を基に検討し、その結果を9月の第2回推進委員会でご報告し、そこで決定する。

(松井委員)

- ・9月の会議でいきなり発表されても困るので、事前に情報を流していただくことはできるか。このメンバーの中で「それはおかしい」とは言いづらいので。

(事務局・堀川)

- ・終わった後に整理し、事前にお渡しすることも含めて検討します。

(事務局・三宅)

- ・今年度予算について説明。
- ・今年度も昨年度と同額の、1校区当たり25万円の補助金が交付される。

- ・ 9月15日までに申請する。
- ・ 口座は各校区の実行委員長名義で作成する。

(一中校区：太田実行委員長)

- ・ なぜ「一律25万円」なのか。児童数が数倍違う。

(事務局：福士)

- ・ 「中学校区全体での事業」としてスタートした経緯があり、一律としている。昨年も同様のご意見をいただき検討したが、児童数で割る算出も非常に難しいという判断に至った。不公平感があるというご指摘は重く受け止めている。「在り方検討会議」でもう一度、より効果的な配分について検討したい。これは税金であるため、有効に活用していく。

(全体・質問なし)

(松尾委員長)

- ・ 以上で議事がすべて終了。

(司会・佐々木係長)

- ・ 第2回推進委員会は9月25日（金）に朝霞市民会館梅会議室で開催を予定。
- ・ 補助金交付に係る書類等の提出は、早めに手続を行う。

(渡辺委員副委員長)

- ・ 皆様、ご苦労様でした。今日は今までになく、皆様の忌憚のないご意見が出た会議だった。
- ・ 「地域とはどこか」ということ、そして「子供の目が輝くために何が必要か」。親が、地域が何かをしなければ、子供は輝かない。そして、その主役は一人ひとり。大人も子供も主役でなければ、地域はまとまらない。
- ・ 「やらされるシェア」ではなく、自分たちが役割の中で主役になれるような地域にしていけることが、子供たちのプラスになる。
- ・ 大人が体験の場を提供しなければ、子供たちは楽しめない。やらされてやるのではなく、「どうやって面白いことをやろうか」と発想を切り替えてほしい。運営する皆様自身が主役になり、子供たちが主役になれるアイデアをひねっていただければありがたい。
- ・ 朝霞の子供たちが健やかに育つよう、皆様の思いを一つによろしくお願いしたい。